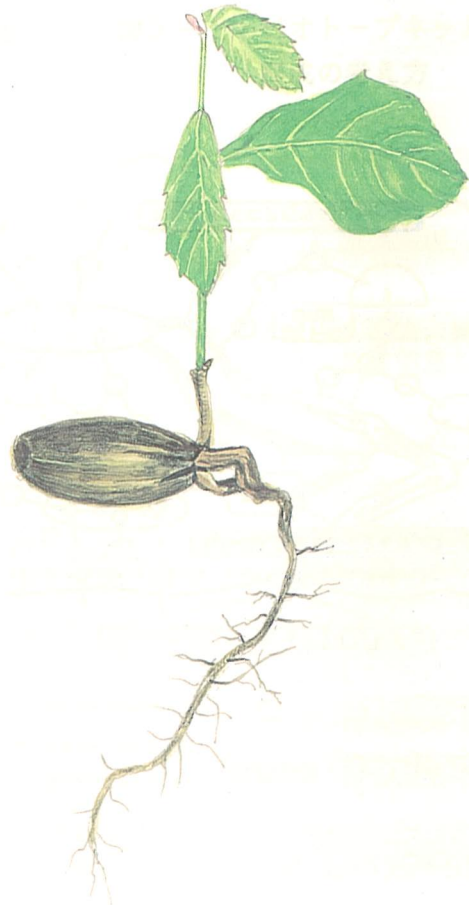


## 第3章 テーマ別の緑の配置方針

- 3-1 自然共生型・低負荷型の都市環境の形成
- 3-2 古都の歴史的風土の保全・継承
- 3-3 多様なレクリエーション活動の場を備えた都市空間の形成
- 3-4 緑を基盤とした安全性の高い都市空間の形成
- 3-5 自然・歴史とまち並みが融和した都市景観の形成



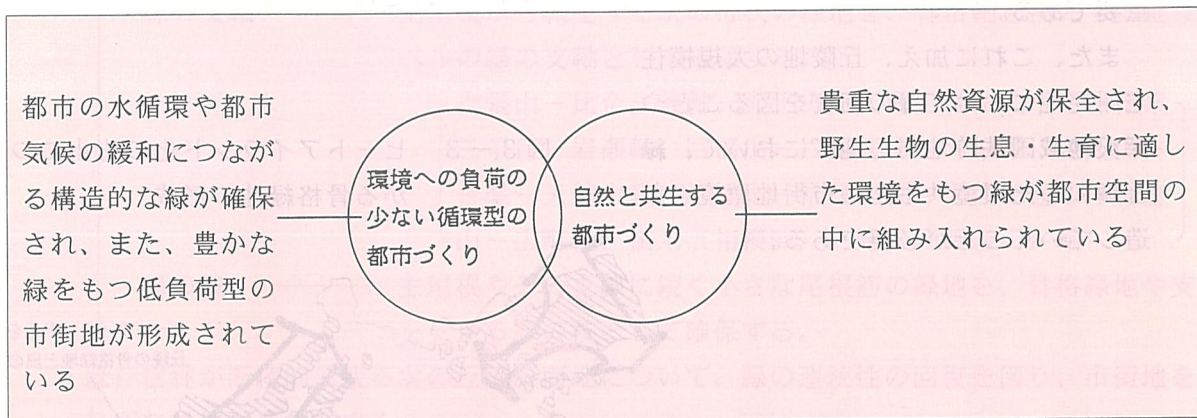
### 3-1 自然共生型・低負荷型の都市環境の形成

#### 1) 基本的考え方

今後のまちづくりでは、良好な自然環境、居住環境の中でうおいのある生活を実現するとともに、地球環境にも貢献する環境にやさしい都市の形成が求められている。

都市の緑はこうした都市形成の基本をなす要素であり、鎌倉市においてもその豊かな山・海・川等の緑を自然共生型・低負荷型の都市環境形成に有効に役立てていくことが必要である。

#### ●自然共生型・低負荷型の都市環境形成と緑の係わり

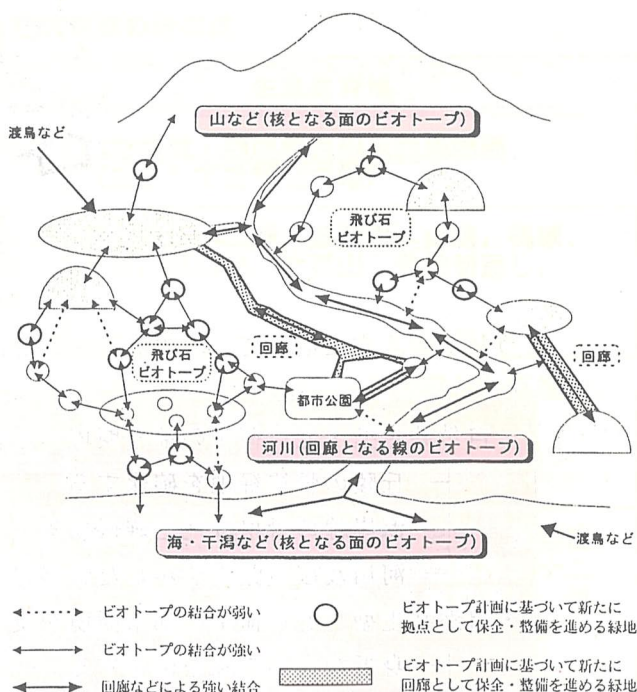


#### ●自然と共生する都市づくりに向けた緑の保全・創造

自然と共生する都市づくりでは、市域に分布する自然植生等の貴重な自然資源を保全するとともに、鎌倉市の多様な緑を活かした面・線・点などの様々な形態をもつビオトープ空間を永続的に確保し、そのネットワーク化を図っていくことが必要である。

- ・面のビオトープ空間
  - 〔都市生態系の基盤をなす丘陵地〕
  - 〔や海岸線の緑〕
- ・線のビオトープ空間
  - 〔河川、道路の緑、市街地を縁取る斜面地の緑 等〕
- ・点のビオトープ空間
  - 〔市街地内の既存樹林地、社寺林、屋敷林、公園、公共施設の緑 等〕

図3-1 ビオトープネットワーク形成の考え方



神奈川県広域緑地計画素案策定調査報告書

平成7年3月 神奈川県都市部都市公園課

●環境への負荷が少ない循環型の都市づくりに  
向けた緑の保全・創造

三方を山に囲まれ、一方に開けた空間構造をもつ鎌倉市においては、市街地を包む「丘陵の緑」と市街地の前面に開けた「海岸線」及びこれをつなぐ「河川」を、都市の水循環の基盤をなし、都市のヒートアイランド化を防ぐ風の道を構成する骨格緑地として確保していくことが重要である。

また、これに加え、丘陵地の大規模住宅開発地において緑の回復を図ることや、深沢地域国鉄跡地周辺地区において、緑と調和した環境共生型の市街地環境を創造していくことが必要である。

図3-2 都市の水循環の基盤をなす緑地

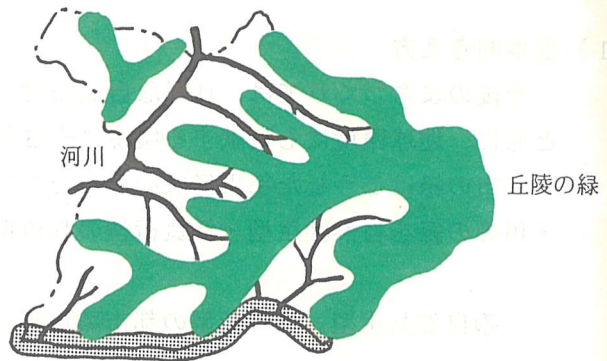
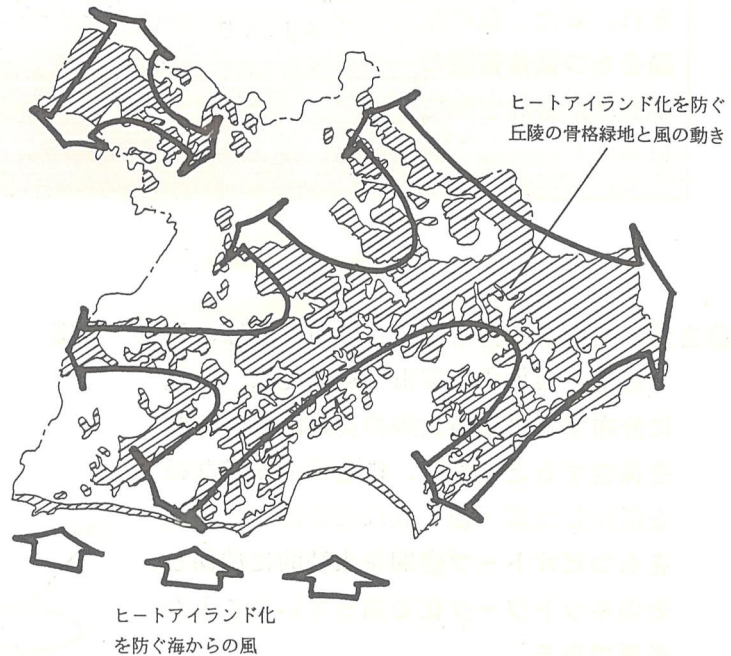


図3-3 ヒートアイランド化の防止につながる骨格緑地の形成



こうした考え方に沿って、次の計画項目を設定する。

- ・自然共生型・低負荷型の都市環境の基盤をなす骨格的な緑地の確保
  - 丘陵の骨格緑地を確保する
  - 海岸線の骨格緑地を確保する
  - 河川及び道路を活かした骨格緑地を創造する
- ・自然共生型・低負荷型の都市環境を支える市街地の緑の保全・創造
  - 身近な自然の緑を保全する
  - 緑豊かな市街地環境を創造する

(2) 緑の配置方針

(1) 自然共生型・低負荷型の都市環境の基盤をなす骨格的な緑地の確保

① 丘陵の骨格緑地を確保する

- ・ 尾根沿いに続く次の丘陵の緑地を、都市の水循環やビオトープネットワーク、気候調節等の基盤をなす骨格緑地として確保し、その良好な自然的環境を保全する。
  - ・ 緑の骨格軸 —— 丘陵の主尾根を構成する名越切通し－衣張山－十二所－大平山－鷲峰山－源氏山－大仏切通し－稲村ヶ崎にかけての山林を、都市の緑の骨格軸として確保する。
  - ・ 緑の支軸 —— 主尾根から派生する次の帯状の緑地を、骨格軸を補完する地域レベルの緑の支軸として確保する。
    - 〔 衣張山－比企ヶ谷軸、大平山－天台山軸、大平山－今泉三丁目・岩瀬軸、巨福山－六国見山・大船軸、源氏山－台峯－天神山軸、桔梗山－常盤山軸、大仏切通し－鎌倉山－広町軸、植木（相模陣）－岡本（観音山）軸 〕
  - ・ 緑の枝 —— 主尾根やその支線に続く小さな尾根筋の緑地を、骨格緑地や支軸を支える緑の枝として確保する。
- ・ 既存樹林が断続的に残る次の丘陵斜面地について、緑の連続性の回復を図り、市街地を取り囲む緑地軸を創造する。
  - 〔 鎌倉山－手広（西ヶ谷）－手広（大谷）軸、鎌倉山－笛田（八反田）軸、鎌倉山－寺分一丁目－天神山軸 〕
- ・ 丘陵一帯に分布する自然植生や、貴重な動植物の生息生育地等の優れた自然資源を有する次の緑地を保全する。

表 3-1 貴重な自然資源の分布地

貴重な自然資源		生息生育地
植 物	スダジイ林、タブノキ林等の自然植生	鎌倉地域・腰越地域の丘陵先端部 （主として社寺境内地）
	イロハモミジ・ケヤキ群集、ハンノキ林、ヤブコウジ・スダジイ群集、イノデ・タブノキ群集等の貴重な植生	天台山、十二所、巨福山、山崎、梶原、長谷、極楽寺、衣張山、名越切通し、
	スハマソウ、クロヤツシロラン、オリヅルシダ、ハイホラゴケ、トキホコリ、ユキヨモギ等の貴重植物及び危急種	散在ガ池、天台山、名越切通し、巨福山、山ノ内、長谷
動 物	鳥類－オオタカ、ハイタカ、カワセミ等 は虫・両生類－ニホントカゲ等 魚類－ホトケドジョウ 昆虫類－テングチョウ、アカシジミ等	散在ガ池、山ノ内、山崎、梶原、衣張山、天台山、巨福山、長谷、六国見山、十二所、腰越、今泉、笛田、名越切通し、梶原四丁目

②谷戸の自然的環境を保全する

- ・谷戸の自然を鎌倉市の都市環境を特色づける重要な要素として保全する。
- ・特に台峯地区、広町地区、手広（大谷）地区に残る谷戸の良好な自然的環境を重要なビオトープ空間として保全するほか、夫婦池、昌清院の池、石原谷戸の池等の水辺環境を周囲の緑地とともに保全する。

③海岸線の自然的環境を保全・創造する

- ・材木座海岸から腰越海岸に至る海浜の自然環境を、丘陵に対応する海岸線の骨格緑地として一体的に保全するとともに、材木座、稲村ヶ崎、腰越等の海岸線とつながる丘陵の緑地を確保する。
- ・稲村ヶ崎から腰越にかけての海岸線沿いの斜面緑地の保全・回復を図り、骨格緑地としての機能を高める。
- ・七里ヶ浜のアカウミガメの生息地や、稲村ヶ崎、小動岬等に見られる貴重な自然資源（イソギクハチジョウススキ群集）を保全する。

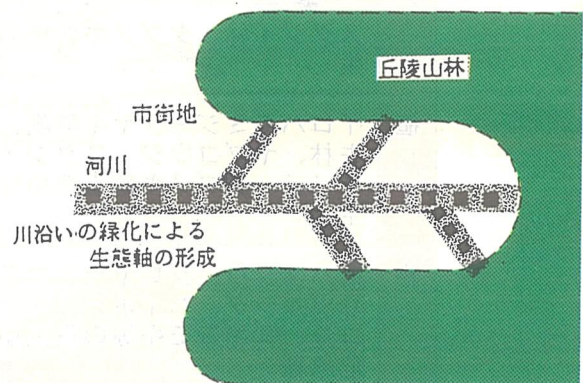
図3-4 海岸線と丘陵の緑地とのつながりの確保



④河川及び道路を活かした骨格の緑を創造する

- ・市街地を流れる次の主要河川とその支流の水系を、丘陵からの雨水を受けとめ、海に注ぐ循環型の都市環境形成の軸をなす緑の空間として位置づけ、その開放水面を確保するとともに、ビオトープ空間としての河川環境を保全・回復する。  
 { 柏尾川、滑川、神戸川、砂押川、梅田川、小袋谷川、新川 等 }
- ・これらの水系については、丘陵山林や谷戸の緑地とのつながりを確保するとともに、川沿いの緑化を行って、生態系の軸をなす緑としての機能を高める。

図3-5 丘陵及び谷戸の緑地と水系のつながりの確保



- ・若宮大路の段葛を、丘陵と海岸線をつなぐ緑の軸として保全する。
- ・また、今後整備される主要都市計画道路（緑化可能な道路）や丘陵住宅地内の地区内幹線道路を対象に、ビオトープ空間としての機能を備えた市街地内の緑の軸を創造する。

(2) 自然共生型・低負荷型の都市環境を支える市街地の緑の保全・創造

① 身近な自然の緑を保全・創造する

- ・ 飛び石状に分布する既存樹林地を、丘陵・海岸線・河川の面的、線的なビオトープ空間をつなぐ市街地内の点的なビオトープ空間として確保し、生物の生息に適した環境づくりを行う。
- ・ このうち、特に河川沿いや丘陵の骨格緑地とつながる場所に位置する岡本、観音山、天神山、等覚寺裏山、手広（峯）地区の樹林地等を、ビオトープネットワーク形成上の拠点となす市街地の緑として保全する。
- ・ 河川沿いに残る農地の保全に努める。
- ・ 谷戸部等に形成された住宅地の豊かな緑を、身近なビオトープ空間や環境負荷の低減につながる緑として保全する。
- ・ 市街地内の学校校庭や公園等の一部などに対して、身近なビオトープ空間づくりに向けた緑化を行う。

② 緑豊かな市街地環境を創造する

- ・ 丘陵地を造成して建設された大規模住宅開発地に対する緑の回復を図り、緑に包まれた低負荷型の居住環境を創造する。
- ・ 鎌倉市の新しい市街地拠点として位置づけられている深沢地域国鉄跡地周辺地区において、環境負荷の低減につながる緑を備えた市街地環境を創造する。

図 3-6 自然共生型の都市環境の形成に係る緑の保全・創造

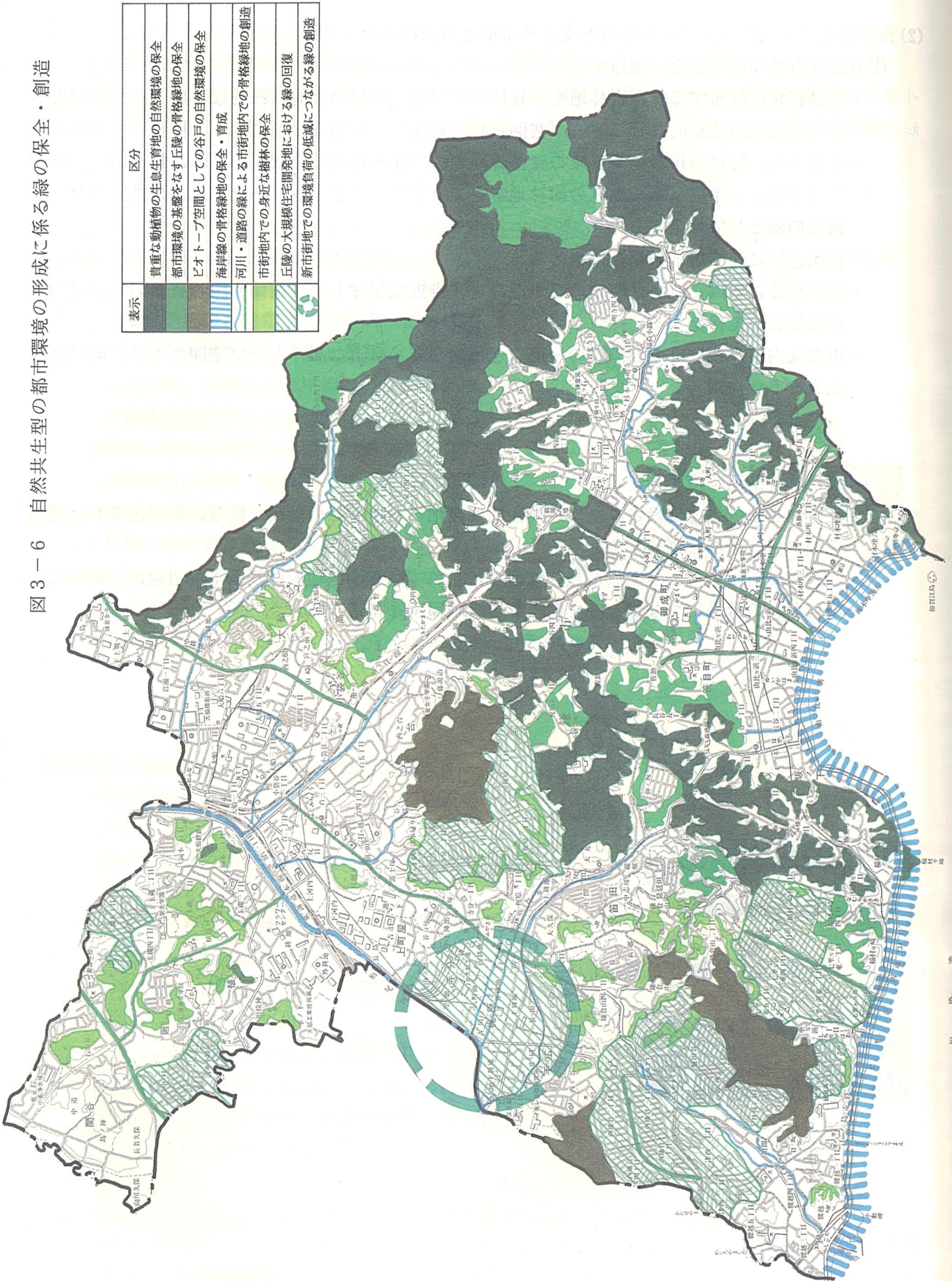


図3-7 ビオトープ計画図

